

第5期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム（第3回）の様について

2024年1月4日

日本証券業協会

<会合の概要>

2023年12月26日（火）、第5期 JSDA キャピタルマーケットフォーラム第3回会合を開催した。

今回の会合では、研究委員2名より研究状況の中間報告が行われ、研究テーマの背景やこれまでの研究で判明した事項、今後の課題等について説明がなされた。

発表者 森 まどか 研究委員（中京大学 法学部 教授）

テーマ 「米国信託証書法の下での『レポーティング・コベナンツ』の運用」

ディスカッサント 慶應義塾大学大学院 法務研究科 久保田 安彦 教授

発表者 高橋 秀徳 研究委員（神戸大学 経済経営研究所 准教授）

（共同研究者 九州大学 経済学研究院 三輪 宏太郎 准教授）

テーマ 「アナリスト規制が株式市場に与える影響」

ディスカッサント 大阪大学大学院 経済学研究科 村宮 克彦 教授



意見交換では、森研究委員の中間報告に対して、ディスカッサントである久保田教授をはじめ、各委員から「日本の社債管理補助者制度はレポーティング・コベナンツを任意のものとするべきか」「米国の信託証書法上、受託者はどこまでの義務を負うのか」「なぜ米国では受託者からデフォルト通知を受領した者によるインサイダー取引が問題とならないのか」などの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。また、高橋研究委員の中間報告に対しては、ディスカッサントである村宮教授をはじめ、各委員から「日証協のガイドライン制定を外生ショックとしてプレビュー遮断の効果を検証する切り口は評価に値する」「プレビューレポートの光（ポジティブな影響）だけでなく影（ネガティブな影響）の部分にもフォーカスして分析を行ってはどうか」「機関投資家や外国人の保有比率が低下したとの分析結果は、裏を返せば他の投資家の保有比率は上昇したことを意味するので、必ずしもネガティブに捉える必要はないのではないか」といった意見が寄せられたほか、対象とするレポートの抽出方法や分析に用いる統計手法などについて活発に意見交換が行われた。

今後、両研究委員は、本会合における意見交換を踏まえ、論文完成を目指す予定である。

以上